令和３年度 兵庫県立明石北高等学校 学校自己評価 【結果】

教育目標	「兵庫が育む こころ豊かで自立する人づくり」の基本理念のもと、 1 校訓「自主・協調・創造」の具現である「探究力」を核として、よりよく生きるための「人間力」をそなえた生徒を育成する。 2 グローカル（グローバル × ローカル）な発想で自ら行動、協働し、「未来世代への責任（持続可能な社会の担い手）」を果たすことができる、学びと生き方が統合された生徒を育成する。
重点目標（要旨）	1 魅力ある学校づくりの推進：生徒一人一人が成就感や達成感を持って学びたいことが学べる魅力ある学校づくり、情報を積極的に提供し学校としての説明責任を果たす地域に信頼される学校づくりを推進する。 2 豊かな人間性の育成：命と人権を大切にし、社会のルールや公正さを重んじる心など、「心の教育」の充実を図り、豊かな人間性を育成するとともに、国民の一員としての自覚と国際社会に対応しうる教養を高める教育を推進する。 3 個性や創造性を伸ばす教育の充実：「確かな学力」を育むとともに、主体的、創造的に「生きる力」を育成し、一人一人が個性や創造性を伸ばし、自ら学ぼうとする意欲や関心を喚起する教育を推進する。 4 「在り方生き方」を考える教育の推進：生徒一人一人が自分の「在り方生き方」を見つめることができるよう支援し、自己の存在感や有用性を実感し社会の一員であることを自覚させ、自分の人生を積極的に切り拓いていく心を育む教育を推進する。 5 開かれた学校づくりの推進：人格形成の上で重要な役割をもつ家庭ならびに地域社会との相互理解・相互信頼の上に立った連携を深め、学校及び家庭における教育効果を高める教育を推進する。

【実践目標の達成状況評価】 ４：よくできている ３：できている ２：あまりできていない １：できていない ＊：わからない
【評価基準】４段階評価の平均 Ａ：３．０以上 Ｂ：２．８以上 Ｃ：２．６以上 Ｄ：２．５以下 ［評価者（回答数）：３６人］

領域等		評価の観点		評価項目	実践目標（指標）	平均	評価(R2)	平均のup/down
学校運営	共通項目	開かれた学校づくり	1	家庭や地域への情報発信	ホームページの更新、学年通信の発行等を通じて、保護者や地域に情報を積極的に提供する。	3.3	A (A)	↗
			2	学校評議員を活用した学校運営の推進	学校評議員会や授業・行事の公開を通じて、学校評議員の意見等を学校運営の改善に役立てる。	2.9	B (C)	↗
		生徒指導	3	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	登下校マナーの向上と事故件数の削減に向け、全教職員の共通理解を基盤とした指導を行う。	3.2	A (A)	↗
			4	生徒の内面の理解を図る指導の工夫	適宜個人面談を実施するとともに、カウンセリングマインドの習得に努めることにより、生徒の内面理解を図る。	3.1	A (A)	→
			5	いじめの未然防止	いじめ防止基本方針に基づき、計画的にいじめ対策に取り組み、いじめを生まない土壌づくりに努める。	3.2	A (A)	↗
		進路指導	6	進路指導体制の充実	進路指導部と学年の連携を深め、3年間を見据えた計画的な進路HR・進路行事の実施と、その内容の充実に努める。	3.1	A (A)	↗
			7	主体的な進路選択能力の育成	個に応じた進路相談を計画的に行い、生徒に自らの「在り方生き方」やキャリア形成について考えさせる。	2.9	B (B)	↗
		教職員の資質向上	8	計画性を持った研修の実施	学校の諸課題、特にICT機器の活用推進に係る校内研修の実施により、指導力の向上を図る。	3.4	A (A)	↗
			9	社会の変化に対応した教育観の育成	学力の三要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）の育成を目標とした授業改善に取り組む。	3.1	A (C)	↗
		危機管理体制の整備	10	実効ある危機管理マニュアルの策定	実情に応じた危機管理マニュアルの見直しを行い、日頃から対応を意識した行動をとる。	2.6	C (D)	↗
			11	教員の実践的な研修・訓練	不審者対応マニュアルに基づき、危機的事態への対応について研修を行う。	2.2	D (D)	→
	選択項目	学校運営全般	12	校務分掌と協働体制の確立	学校教育目標の実現に向けた各部・各学年の具体的経営方針を定め、その実現に向けて協働する。	3.0	A (C)	↗
			13	勤務時間の適正化（働き方改革）推進	勤務時間の適正化（「ノー部活デー」の取組を含む）を意識し、自身の業務の在り方とワーク・ライフ・バランスの見直しを行う。	2.5	D (D)	→
教育課程	共通項目	自ら学び自ら考える力の育成	14	生涯学習の視点に立った実践能力の育成	令和4年度より実施される新学習指導要領を念頭に、生徒の興味・関心に応えられる特色ある教育課程を編成（検討）する。	2.9	B (C)	↗
		基礎・基本の定着	15	学ぶ喜びや達成感が味わえる指導方法の工夫	「学習のための基本的スキル」の育成と、主体的・対話的で深い学びを実現するための教授方法を創意工夫する。	2.9	B (B)	↗
		総合的な探究の時間（課題研究）	16	創意工夫を生かした実践の展開	批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力からなる「探究力」を持った生徒の育成に努める。	2.8	B (A)	↘
		個に応じた学習指導の徹底	17	評価方法の創意工夫	「診断的評価」「形成的評価」の観点を取り入れることにより学習評価の精度を高めるとともに、「観点別評価」の普及と充実に取り組む。	3.1	A (D)	↗
	選択項目	特別活動（学校行事等）	18	自主的・実践的な活動の活性化	生徒会活動やホームルーム活動において、生徒の自主的な態度と運営能力の育成・伸長を図るよう支援する。	3.1	A (B)	↗
			19	学校行事の精選と行事内容の充実	学校行事（高校生ふるさと貢献活動事業を含む）の精選と行事内容の充実を図る。	2.7	C (C)	→
課題教育	共通項目	防災・安全教育	20	防災教育に係る指導力・実践力の向上	防災避難訓練の実施と危険箇所の点検、救急救命講習の受講により、教職員の意識と技能を高める。	2.5	D (D)	→
		人権教育	21	人権教育推進体制の充実	3年間を見通し、生徒の発達段階や関心に応じた人権LHRを計画的に実施する。	3.1	A (A)	↗
	選択項目	情報教育	22	情報活用能力と情報モラルの育成	生徒がICT機器を適切に利用し情報を活用する能力と、人権尊重を基盤とした情報モラルを育成する。	3.0	A (B)	↗
		環境・福祉教育	23	環境教育の推進	ゴミや省資源等の身近な問題から生徒の環境への関心を高め、環境美化に取り組む姿勢を育てる。	2.8	B (C)	↗
	独自項目	学校の個性化・多様化	24	第3期SSH2年次の事業推進	【自然科学科】各教科・科目でSTEAM教育をベースとした探究的活動（課題研究を含む）の充実を図る。	3.2	A (A)	↗
			25	SDGsの理念の教育活動全般への普及	【全校】各教科・科目の授業及び特別活動等にSDGsの視点を取り入れ、17の目標と関連付けた実践を行う。	2.7	C (C)	↗
					【総合評価】	2.9	B (B)	↗

令和3年度学校評価　教員・生徒・保護者による評価結果比較表　【評価基準日：令和4年2月10日】

【教職員（行動指標）】　4：よくできている　3：できている　2：あまりできていない　1：できていない　＊：わからない
【生徒・保護者（成果指標）】　4：そう思う　3：どちらかといえばそう思う　2：どちらかといえばそう思わない　1：そう思わない　＊：わからない
※保護者の方には、コロナ禍にあったことを踏まえ、特別活動の評価について、全員に「わからない」を選択していただいた。
【評価基準】　4段階評価の平均　A：3.0以上　B：2.8以上　C：2.6以上　D：2.5以下

領域等		評価の観点	教職員（回答：36名）	平均	評価(R2)	生徒（回答：634名）	平均	評価	保護者（回答：307名）	平均	評価
学校運営	共通項目	開かれた学校づくり	ホームページの更新、学年通信の発行等を通じて、保護者や地域に情報を積極的に提供する。	3.3	A (A)	学校ホームページや学年通信、Google Classroom 等で、必要な情報が得られている。	3.1	A	学校ホームページや学年通信等で、必要な情報が伝えられている。	2.7	C (A)
			学校評議員会や授業・行事の公開を通じて、学校評議員の意見等を学校運営の改善に役立てる。	2.9	B (C)						
		生徒指導	登下校マナーの向上と事故件数の削減に向け、全教職員の共通理解を基盤とした指導を行う。	3.2	A (A)	交通ルールやマナーを守り、安全に登下校している。	3.5	A	子どもは基本的な生活習慣や交通道徳が身についている。	3.3	A
			適宜個人面談を実施するとともに、カウンセリングマインドの習得に努めることにより、生徒の内面理解を図る。	3.1	A (A)	先生方には、不安や悩み事を気軽に相談できる雰囲気がある。	2.8	B (A)			
			いじめ防止基本方針に基づき、計画的にいじめ対策に取り組み、いじめを生まない土壌づくりに努める。	3.2	A (A)	先生方からは、いじめを生まない、許さないという姿勢が感じられる。	3.1	A	学校全体でいじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める姿勢が感じられる。	2.9	B (A)
		進路指導	進路指導部と学年の連携を深め、3年間を見据えた計画的な進路HR・進路行事の実施と、その内容の充実に努める。	3.1	A (A)	進路選択や進路実現に向けた学習支援や行事、個別面談が充実している。	3.1	A	子どもの主体的な進路選択や、進路希望の実現に向けた情報提供や支援体制が充実している。	3.0	A
			個に応じた進路相談を計画的に行い、生徒に自らの「在り方生き方」やキャリア形成について考えさせる。	2.9	B (B)						
		教職員の資質向上	学校の諸課題、特にICT機器の活用推進に係る校内研修の実施により、指導力の向上を図る。	3.4	A (A)						
			学力の三要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）の育成を目標とした授業改善に取り組む。	3.1	A (C)						
		危機管理体制の整備	実情に応じた危機管理マニュアルの見直しを行い、日頃から対応を意識した行動をとる。	2.6	C (D)						
			不審者対応マニュアルに基づき、危機的事態への対応について研修を行う。	2.2	D (D)						
	選択項目	学校運営全般	学校教育目標の実現に向けた各部・各学年の具体的経営方針を定め、その実現に向けて協働する。	3.0	A (C)				子どもの学年の経営方針（どのような生徒を育てたいのか）を理解している。	2.8	B
			勤務時間の適正化（「ノー部活デー」の取組を含む）を意識し、自身の業務の在り方とワーク・ライフ・バランスの見直しを行う。	2.5	D (D)	「ノー部活デー」の取組がなされ、バランスのとれた生活を送っている。（3年生は振り返って回答）	2.8	B	「ノー部活デー」の取組により、子どもはバランスのよい生活を送っている。（3年生保護者は振り返って回答）	2.9	B (A)
教育課程	共通項目	自ら学び自ら考える力の育成	令和4年度より実施される新学習指導要領を念頭に、生徒の興味・関心に応えられる特色ある教育課程を編成（検討）する。	2.9	B (C)	生徒が興味・関心が持て、主体的に学習に取り組める授業が多い。	2.8	B	子どもの興味・関心に対応した特色ある教育活動が行われている。	2.8	B
		基礎・基本の定着	「学習のための基本的スキル」の育成と、主体的・対話的で深い学びを実現するための教授方法を創意工夫する。	2.9	B (B)				入学時と比較して、子どもには主体的に学習に取り組む姿勢が育っている。	3.1	A
		総合的な学習（探究）の時間（課題研究）	批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力からなる「探究力」を持った生徒の育成に努める。	2.8	B (A)	【2年生・1年8組対象】総合（課題研究）の時間を通じて、思考力・判断力・表現力が高められている。	3.0	A			
		個に応じた学習指導の徹底	「診断的評価」「形成的評価」の観点を取り入れることにより学習評価の精度を高めるとともに、「観点別評価」の普及と充実に取り組む。	3.1	A (D)	生徒一人一人の実態に応じて、きめ細かな学習指導と評価が行われている。	2.7	C (B)	子どもに対して、個に応じたきめ細かな学習指導と評価がなされている。	2.8	B
	選択項目	特別活動（学校行事等）	生徒会活動やホームルーム活動において、生徒の自主的な態度と運営能力の育成・伸長を図るよう支援する。	3.1	A (B)	学校行事や生徒会行事、ホームルーム活動に積極的に参加（協力）している。	3.3	A	各種学校行事の内容や実施時期は満足できるものである。	※	※
			学校行事（高校生ふるさと貢献活動事業を含む）の精選と行事内容の充実を図る。	2.7	C (C)						
課題教育	共通項目	防災教育・安全教育	防災避難訓練の実施と危険箇所の点検、救急救命講習の受講により、教職員の意識と技能を高める。	2.5	D (D)	防災に関する訓練や授業等を通して、防災・減災の意識を高めることができている。	3.0	A (B)			
		人権教育	3年間を見通し、生徒の発達段階や関心に応じた人権LHRを計画的に実施する。	3.1	A (A)	互いの違いを認め合い、自他を大切にしようとする態度が身についている。	3.3	A	子どもには、互いの違いを認め合い、自他を大切にしようとする態度が備わっている。	3.2	A
	選択項目	情報教育	生徒がICT機器を適切に利用し情報を活用する能力と、人権尊重を基盤とした情報モラルを育成する。	3.0	A (B)	スマートフォンやSNSを利用する時は、ネット上のルールやマナーを守っている。	3.6	A	子どもはスマートフォンやSNS利用時のルールやマナーが身についている。	3.0	A
		環境・福祉教育	ゴミや省資源等の身近な問題から生徒の環境への関心を高め、環境美化に取り組む姿勢を育てる。	2.8	B (C)	校内清掃に励み、身近な生活環境を美しく保とうと意識している。	3.3	A	子どもたちの生活環境・学習環境はよく整えられている。	3.0	A
	独自項目	学校の個性化と多様化	【自然科学科】各教科・科目でSTEAM教育をベースとした探究的活動（課題研究を含む）の充実を図る。	3.2	A (A)	【1年8組対象】STEAM教育では、教科の枠を超えた体験的な学びに「ワクワク」している。	3.1	A			
			【全校】各教科・科目の授業及び特別活動等にSDGsの視点を取り入れ、17の目標と関連付けた実践を行う。	2.7	C (C)	SDGsを理解し行動することは、自分にとっても身近な課題である。	2.9	B	学校教育を通して子どもがSDGsに興味・関心を向けることは大切なことだ。	3.3	A
						「創立50周年」を記念する（祝う）年に在籍できてよかった。	3.1	A			
			【総合評価】	2.9	B (B)	【総合評価】	3.1	A	【総合評価】	3.0	A

〈自己評価（A～D）が前年度から大きく向上（C→A、D→A）した実践目標について〉

項目	実践目標（指標）	背景：「前年度 CA→今年度 PDCA」サイクルが機能
12	学校教育目標の実現に向けた各部・各学年の具体的経営方針を定め、その実現に向けて協働する。（C→A）	＊年度当初に「三つの方針」（スクールポリシー）を含む学校経営方針を明示、かつ、折に触れ確認。 ＊新たな校務分掌組織による取り組みが徐々に軌道に。
9	学力の三要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）の育成を目標とした授業改善に取り組む。（C→A）	＊観点別評価に係る教員研修会を年５回実施 第１回～第４回 講師：兵庫教育大学大学院　奥村 好美 准教授 第５回 実践報告：本校　植田 好人 教諭（理科） ＊令和４年度入学生向けシラバスの様式の検討・完成及び各教科への年度内作成依頼 ＊「学校推薦型選抜」大学入試の推薦書においては、昨年度から「学力の三要素」への具体の言及が必須に。
17	「診断的評価」「形成的評価」の観点を取り入れることにより学習評価の精度を高めるとともに、「観点別評価」の普及と充実に取り組む。（D→A）	

〈自己評価（A～D）が前年度同様に「C」「D」であった実践目標の改善に向けて〉

項目	実践目標（指標）	Check から始まる「CAPD サイクル」の確立に向けて
10	実情に応じた危機管理マニュアルの見直しを行い、日頃から対応を意識した行動をとる。	＊前年度に引き続き、危機管理の意識・行動の大半を新型コロナウイルス対策に向けざるをえず、他の実践が伴わなかった。 ＊次年度は、定期的に研修や訓練（シミュレーション）を行い、職場全体で危機への対応力を向上させたい。
11	不審者対応マニュアルに基づき、危機的事態への対応について研修を行う。	
13	勤務時間の適正化（「ノー部活デー」の取組を含む）を意識し、自身の業務の在り方とワーク・ライフ・バランスの見直しを行う。	＊部活動指導の思いは教員間で差があるが、「ノー部活デー」の趣旨の再確認と、校内規定の遵守は不可欠。 ＊勤務時間の適正な把握は管理職の責務だが、実践目標では「自身の」となっていることにも注意が必要。
19	学校行事（高校生ふるさと貢献活動事業を含む）の精選と行事内容の充実を図る。	＊コロナ禍であるからこそ、いっそう柔軟な発想で魅力ある行事を企画したい。 ＊ふるさと貢献活動（花壇整備、クリーン作戦等）は形骸化も。趣旨に沿うよう新たな工夫・取組が必要。
20	防災避難訓練の実施と危険箇所の点検、救急救命講習の受講により、教職員の意識と技能を高める。	＊コロナ禍で、前年度に引き続き教職員・生徒ともに、避難訓練、心肺蘇生法の講習会を実施できなかった。 ＊次年度は、避難して終わりではなく、地域とも連携し、災害時に職員・生徒が弱い立場の住民の援助者となるための力を身につけられる訓練内容を企画したい。 ※一方、防災教育・安全教育に係る生徒の評価は「A」。
25	各教科・科目の授業及び特別活動等に SDGs の視点を取り入れ、17 の目標と関連付けた実践を行う。	＊SDGs という言葉そのものはすっかり定着した。次年度は、職員・生徒ともに、身近で自分事として意識できる課題を設定し、具体的な実践につなげたい。 ※学校で SDGs を取り上げることについて、保護者の評価は「A（3.3）」と非常に高い。

〈自己評価（A～D）が前年度よりも下がった（A→B）実践目標について〉

項目	実践目標（指標）	考察（背景・要因、実態等について）
16	批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力からなる「探究力」を持った生徒の育成に努める。	＊前年度の実践目標は「探究活動を通して協働性と表現力を持つ生徒を育成するよう努める」であった。それに比して今年度は、スクール・ポリシーに基づき「探究力」が具体に定義されたため、評価に際してのハードル（基準）が高くなったと考えられる。 ＊一方で、生徒の問題発見と解決に必要な「思考力」を測定し育成するGPS-Academicの結果※からは、十分な成果が見て取れる。

※【参考】GPS-Academicによる３つの思考力の変容（向上）について：同一学年を対象に１年生７月と２年生12月に実施した結果からは、思考力の向上を確認することができた。

49回生普通科・自然科学科						
思考力	批判的思考力		協働的思考力		創造的思考力	
実施年月日	2021年12月	2020年7月	2021年12月	2020年7月	2021年12月	2020年7月
S	0人(0%)	1人(0%)	7人(2%)	2人(1%)	3人(1%)	0人(0%)
A	103人 (34%)	71人(23%)	155人(51%)	76人(24%)	81人(27%)	46人(15%)
B	153人(51%)	197人(63%)	133人(44%)	200人(64%)	188人(62%)	205人(66%)

批判的思考力：情報を抽出・吟味し、論理的に組み立てて表現する力
協働的思考力：相手の価値観や相手との共通点・違いを理解し、積極的に関わり一緒に進む力
創造的思考力：情報の関連づけと類推により、目標達成への課題と解決策を考える力

〈自己評価と保護者による評価に隔たりがあった実践目標について〉

項目	実践目標（指標）	教員	生徒	保護者	対応等
1	ホームページの更新、学年通信の発行等を通じて、保護者や地域に情報を積極的に提供する。	A (3.3)	A (3.1)	C (2.7)	＊保護者の自由記述回答では、保護者向けメールサービスの導入と、学校HPの内容充実を求める声が寄せられた。 ＊一方、生徒にはGoogle Classroomや学年通信等で必要な情報が提供され、高評価となっている。 ＊そこで学校は、保護者の皆様が必要とされる情報等がHPだけで全てそろうよう、掲載内容の充実と更新の迅速化等、利便性の向上に努めます。 ＊また、必要かつ大切な情報が生徒から保護者に確実に伝わるよう、生徒を啓発し意識を高めます。ご家庭のご理解ご協力が得られましたら幸いです。

〈自己評価等を踏まえた学校評議員の意見・感想等（一部）〉

- 自己評価C・Dの項目は、「コロナ禍でもできる、コロナ禍だからできる」代替の取組を期待。
- SDGsの重要性に係る意識は根付いた。持続可能な社会の担い手となるべく、実践を期待。
- ふるさと貢献活動について、地元商店街の行事等への高校生の参画を歓迎。ぜひ一緒に。
- 進学校での観点別評価・授業改善の取組を知り、義務教育の立場からは心強く、安心もした。 etc.